

日本科学未来館（内閣府共催）トークセッション
「ヒト受精卵での研究 どう考えますか？」結果報告

1. 概要

イベント名：トークセッション「ヒト受精卵での研究 どう考えますか？ ——あなたの声が国に届きます」

内容：ヒト受精卵を使用した研究を進めることへの期待や要望、不安などについて一般の声を聴いた。

登壇：加藤 和人（内閣府 総合科学技術・イノベーション会議（CSTI）生命倫理専門調査会 専門委員／大阪大学大学院医学系研究科社会医学講座 医の倫理と公共政策学分野 教授）

石原 理（CSTI 生命倫理専門調査会「ヒト胚の取扱いに関する基本的考え方」見直し等に係るタスク・フォース 構成員／埼玉医科大学 医学部産科・婦人科 教授）

毛利亮子（日本科学未来館 科学コミュニケーター）

日時：2019年5月11日（土） 14:30～16:00

場所：日本科学未来館（東京都江東区青海）

主催：日本科学未来館

共催：内閣府

対象：高校生以上

2. 参加者数

一般：80名（着席40名、立ち見40名）

プレス：5社9名

3. 結果

- ・ 参加募集期間は3週間程度と短かったにもかかわらず、定員以上の参加があり市民の関心度の高さをうかがわせた。プレスの参加も多かった。
- ・ 日本科学未来館のホームページでコメントを受け付けたり、日本科学未来館の展示内のオピニオンバンク（画面を見ながら来館者自身が意見を入力する端末）を活用するなどして、イベント参加者以外からの声も多く集めることができた。また、イベント当日は会場に「ご意見ボード」を設置し、ヒト受精卵での基礎的な研究について、どの目的ならば認めてもよいかについて意見を収集することができた。
- ・ 登壇者は、実際にヒト受精卵を使用して研究している立場、国際的なルール作りに関わる立場などから、多角的に情報提供した。立ち見でも熱心に聞く参加者が見られた。また、自動投票システムを利用することで、参加者の意識の変容も確認することができた。
- ・ 参加者と登壇者が語り合うパートでは、人間の知りたいという好奇心にルールで歯止めがかけられるか、世界のルール作りに日本が果たす役割とはなど、さまざま質問が出た。

- ・ 参加者の意見としては、「どんな社会をえがくのか話し合いの大切さを感じた」、「こういった議論をされていることを多くの国民が知らないことが問題だ」、「同じテーマで継続的に同様のイベントを開催してほしい」などが出された。イベント終了後にスライドの資料配布を希望されたり、資料として配布したパブリックコメントの提出用紙を持ち帰ったりした方もいたため、参加者のこのテーマに対する関心度の高さがうかがわれた。
- ・ 本イベントを通して、市民との対話の中で「ヒト受精卵へのゲノム編集技術の利用」に関する議論を深めることができたと考えられる。本テーマは社会で時間をかけて議論していくことが重要であり、今後も継続的に市民に議論の場を提供していく。

4. 当日の様子（写真）



以上

5月11日(土)トークセッション 「ヒト受精卵での研究 どう考えますか？」 ＜取材のご案内＞

にっぽんかがくみらいかん

日本科学未来館(略称:未来館 館長:毛利 衛)では、2019年5月11日(土)に、トークセッション「ヒト受精卵での研究 どう考えますか? ——あなたの声が国に届きます」を開催します。ヒト受精卵のゲノム編集について、政府の有識者会議のメンバーと市民が直接話し合う対話型のイベントです。

「生命の萌芽」であるヒト受精卵は尊重されるべき存在として、研究目的での新たな使用の可能性が出てくるごとに、その使用を認めるべきかを政府が慎重に検討し、ルール整備を行ってきました。

今般、遺伝情報の書き換えを自在にできる画期的な新技術「ゲノム編集」の登場によって、ヒト受精卵を使った新たな研究の可能性が生じています。基礎的研究に限定した上で一部は既に容認されましたが、さらに研究可能な対象を広げるかどうかの検討が政府で進められています。

本イベントでは、総合科学技術・イノベーション会議・生命倫理専門調査会「ヒト胚の取扱いに関する基本的考え方」見直し等に係るタスク・フォースのメンバーの加藤和人氏と石原理氏をお招きして、この議論の最新状況を紹介していただきます。

そのうえで、参加者が有識者へ直接疑問点などをぶつけるだけでなく、研究解禁への賛否をその理由とともに付箋紙に書いてもらったり、当日参加できない市民からウェブサイトを通じて集まった声なども紹介したりする予定です。

日本科学未来館では2016年から本テーマに関して市民の声を集めてきました。今回寄せられた意見も政府の有識者会合にフィードバックする予定にしています。ヒト受精卵にゲノム編集技術を応用することへ市民が抱く不安や期待を直接取材できる貴重な機会です。ご多忙のところ恐縮ですが、何卒ご取材を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

■開催概要

タイトル トークセッション「ヒト受精卵での研究 どう考えますか? ——あなたの声が国に届きます」

開催日時 2019年5月11日(土) 14:30~16:00

開催場所 日本科学未来館 5階 コ・スタジオ

定員 40名

主催 日本科学未来館

共催 内閣府

URL <https://www.miraikanjst.go.jp/event/1904171824166.html>

講師

加藤 和人氏 (大阪大学大学院 医学系研究科 教授)

JT生命誌研究館研究員、京都大学人文科学研究所准教授などを経て、2012年より現職。先端医療の歩みと営みを調べ、その情報をさまざまな人々と共有し、科学研究と先端医療の意味や問題点についてともに考えていくことを目指している。世界保健機関(WHO)のヒトへのゲノム編集に関する専門委員会のメンバーでもある。



加藤和人氏

石原 理氏 (埼玉医科大学 医学部産科・婦人科 教授)

東京大学医学部産婦人科、英国ロンドン大学ハマースミス病院などを経て、現職。生殖医療の専門医で、着床や排卵といった生殖に関するさまざまな研究のほか、不妊症をめぐる社会的・文化的な問題についても研究をしている。国際生殖補助医療監視委員会のボードメンバーとして、生殖医療に関する国際的な統計データの収集や分析にも従事している。



石原理氏

一般からのお問い合わせ先	本件に関するお問い合わせ先
日本科学未来館 〒135-0064 東京都江東区青海2-3-6 TEL: 03-3570-9151 / FAX: 03-3570-9150 URL: https://www.miraikanjst.go.jp/	日本科学未来館 事業推進課 広報・普及担当 Email: press@miraikanjst.go.jp TEL: 03-3570-9192 / FAX: 03-3570-9150

トークセッション
「ヒト受精卵での研究 どう考えますか？」
取材のご案内・取材申込票

FAX 送付先 : 03-3570-9150

■トークセッション「ヒト受精卵での研究 どう考えますか? ——あなたの声が国に届きます」

開催日時: 2019年5月11日(土) 14:30~16:00(1階防災センターにお声がけください)

開催場所: 日本科学未来館 5階 コ・スタジオ

出席者: 加藤和人氏(大阪大学)・石原理氏(埼玉医科大学)

ご出席いただける場合には、5月10日(金)17:00までに、必要事項をご記入のうえ、FAXもしくはメールにてご返信ください。

※メールによるお申込の場合は、本用紙を添付、または下記項目をメール本文に記入のうえ、press@miraikanjst.go.jp までお送りください。

※一般のお客様を撮影される場合には、ご本人もしくは保護者の方の了承を得ていただきますようお願いいたします。

ご参加内容	トークセッション「ヒト受精卵での研究 どう考えますか?」(5月11日(土)14:30~16:00)		
御社名			
媒体名			
部署名			
お名前	様 全 名		
撮影機材	<input type="checkbox"/> ムービー(ENG 台・ハンディ 台) <input type="checkbox"/> スチール(台)		
連絡先	MAIL:	FAX:	
	TEL:		
	携帯電話:		
	※差し支えないようでしたら当日連絡用の携帯電話番号をご記入ください。		
通信欄			

■会場 : 日本科学未来館(東京都江東区青海 2-3-6)

■アクセス :

・新交通ゆりかもめ「テレコムセンター駅」下車、徒歩約4分

・「東京国際クルーズターミナル駅」下車、徒歩約5分

・東京臨海高速鉄道りんかい線「東京テレポート駅」下車、

徒歩約15分

